

< 今日の説教のポイント ルカによる福音書 13 章 1～9 節 >

1 二つの話は関係がある。それが分かると福音に満ちた話だと分かる。

関係あるとは思えない二つの話が並んでいるだけの個所のように思えます。しかし、実はルカ福音書らしい、福音に満ちた内容なのです。

2 (1-5) 「悔い改めなければ皆滅びる」は因果応報論？

今の私たちもよく分かる問題が取り上げられています。すなわち、人災にせよ自然災害にせよ、突然私たちの上に起こる災いをどう考えたらいいのかという問題です。理由が分からない災いは、①「神様なんかいると思えない」と思うか、②「何か悪いことをしたからこんな目に遭うのか」と考えるか、普通、人はどちらかでしょう。しかし、人災自然災害にかかわらず、イエス様の返答は全く同じで、「**あなたがたも悔い改めなければ、皆同じように滅びる。**」(35)でした。これは「～なければ滅びる」ですから、イエス様は結局、②の因果応報論を語っておられるのでしょうか？「滅びる」という語が使われていることに注目です。この原語はイエス様が「**見失われた羊**」(ルカ 15:4,6)に使われ、見つかることを喜び、「**悔い改める**」(ルカ 15:7)ことを勧めておられる個所で用いられている語なのです（「放蕩息子」の話に続くルカ 15 章の主題！）。ここでも、次の 6 節以下の話を読むと、イエス様が「滅びるぞ」と脅しておられるのではなく、「神様はあなたがたが滅んでほしくないのですよ」と言われているのだということがよく分かります。

3 (6-9) 園丁はイエス・キリスト。園丁の願いに神様の本心を見る！

ぶどう園の主人は神様です。役回りは確かに厳しい存在です(6-7)。しかし、話の中の個々の人物だけ抽出するのではなく、話全体で言わんとしていることを聞かなければなりません。園丁の発言が大事です。「**猶予を与えて下さい、養います、そしたら実がなるかもしれません、それまで待つて下さい**」と願うのです(8-9)。この園丁こそ、私たちに遣わされた園丁、イエス・キリストです。聖書は旧新約聖書とも、このような福音を読み取るための書です。「**主は約束の実現を遅らせておられるではありません。そうではなく、一人も滅びないで皆が悔い改めるようにと、あなたがたのために忍耐しておられるのです。**」(Ⅱペトロ 3:9)。この隣み深い神様を本当に知ったら、この神様の方に向き直って生きる（悔い改めるの原意）ことなしではおられないはずです。全ての人がある可能体。そうなるように願うのが信仰者なのです(創世記 50:19-21 のヨセフの言葉に注目)。